

【安全な道路の通行のために】

10) 築港地域は、咲州トンネルを介して、みなと通と結ばれ交通量が増えました。とくに、夢洲にコンテナヤード等の施設が整備され、大型トレーラー等の環境負荷の大きな車両が増えてから、生活環境に及ぼす振動、騒音等は我慢の限界を超えるようになりました。

問題なのは、今後、ベイエリアの観光拠点として夢洲の万博跡地と統合型リゾートの相乗効果を期待した観光拠点として開発することが先の統一地方選挙で明らかにされたことです。

すでに、現状の道路交通による環境へ与える影響は我慢の限界を超えていますので、将来の交通需要の増大に備えるため、次のことを要求します。

築港地域の交通による騒音、振動等の環境基準値を示すこと。また、新たなベイエリアの観光拠点が整備された後のみなと通の交通量の増加予測量を示すこと。

築港地域内の現在の生活環境を改善し、将来にわたって地域への交通量の流入を抑制する対策として、すでに港区をはじめ大阪市内で早くから導入されている、歩車共存施設の「ボン・エルフ」(写真)を設けること。

【築港1丁目】

